

# 生誕の地に今なお息づく ものづくりの原点と精神

◆平成27年度静岡県景観優秀賞(まちなみ部門)受賞

## 豊田佐吉記念館

(湖西市)



豊田佐吉の生家。後にトヨタ自動車を創設した佐吉の長男・喜一郎もここで生まれた。

浜名湖を望む小さな山に、寄り添うように佇む古民家。簡素でありながら凛とした存在感を放つのはトヨタグループの創始者、豊田佐吉の生家だ。

生家は「豊田佐吉記念館(湖西市)」の中に建つ。6000坪という広大な敷地には母家、納屋、展示室などの建屋群もあり、トヨタグループと地元企業による「豊田佐吉記念館保存会」が裏山の自然とともに維持保全活動を行っている。

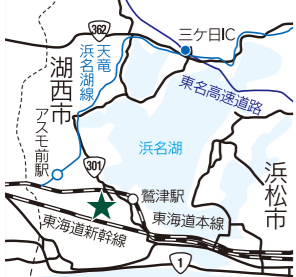
同館は1988(昭和63)年、佐吉の生誕120年を記念して整備された。その後、1990(平成2)年に復元された生家は、劣化によって創建当初の意匠を保持できなくなったため、昨年、茅葺屋根の全面葺き替えを実施。地元の材料を使い、地元に残る希少な知恵と技を集結して、湖西地方の特徴を鮮やかに表現する形で生まれ変わった。その佇まいに息づく歴史的価値、佐吉の志、人々の誇りは次世代に語り継ぐべき資産であると認められ、同館は平成27年度の静岡県

景観賞の優秀賞(まちなみ部門)を受賞した。

1867(慶応3)年、遠江国敷郡山口村(現湖西市)に生まれた豊田佐吉は、織機分野で画期的な発明を次々に生み出した。中でも1924(大正13)年に発表したG型自動織機は当時のトップメーカー、イギリスのプラット社が1929(昭和4)年、特許権を買収したこと知られる。これは佐吉のものづくりが世界レベルを凌駕していた証だ。その翌年、佐吉は63歳で没するが、遺志を継いだ長男の喜一郎が特許で得た資金を元に国産自動車の研究開発に着手。世界に冠たるトヨタグループの礎を築いた。

生前、海外進出に消極的な仲間を「障子を開けてみよ、外は広いぞ」と激励した豊田佐吉の情熱と創造の生涯。同館にはその精神が今なお脈々と息づいている。

**豊田佐吉記念館**  
静岡県湖西市山口113-2  
電話/053-576-0064  
営業時間/休館日:水曜(祝日の場合は翌日)、年末年始、その他  
開館時間:9:30~17:00(10月~3月は16:30まで)  
東海道本線・鷺津駅下車徒歩25分  
東名高速道路・三ヶ日ICから車で30分



記念館の入口。門の奥左に母家、右に佐吉が発明した織機などを展示する展示室がある。



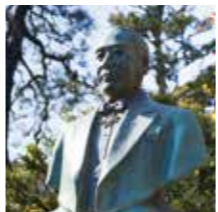
生家内部。佐吉が生まれた当時の古材を用い、写真や資料を元に復元された。障子の外には豊かな自然が広がる。



少年時代の佐吉が木工の父親に隠れて研究に取り組んだ納屋(復元)。作業は木工仕事の後、夜間に行われていた。



佐吉は生涯で84件の特許と35件の実用新案を取得。このG型自動織機にも多数の発明が盛り込まれている。



母家の脇にある豊田佐吉の胸像。世界クラスのものづくりを極めた功績の背景は「世の中のために尽くしたい」という強い思いがあった。

### ◎目次

1 静岡景観  
豊田佐吉記念館

3 ◆知事対談  
静岡県とスイス連邦

## 「世界の宝」を守り、 活かして いくために

駐日スイス特命全權大使  
ウルスブルーヘル氏対談

7 ふじのくに地域外交  
東南アジア編

9 ふじのくにから世界へ  
オリンピックを契機に  
静岡県をサイクルスポーツの聖地へ

10 旬の人  
海野大透さん

11 ◆県政特集  
県立の博物館が描く、  
百年後の  
静岡県の在り方。

13 次代を拓く  
西光エンジニアリング株式会社

14 ふじのくにを直す  
うなぎいも